

# 5 部 環境設定

桐の環境設定は、つぎの内容を設定するときに使用します。

- 桐の処理動作の制御
- 表やフォームなどを新規作成するときの既定値
- 桐 ver5 のファイルを変換するときの属性
- ネットワーク上での共有設定
- 一括処理の動作環境
- 起動時に実行する一括処理の指定

環境設定を行なうには[ツール]メニューから[環境設定]を選びます。この画面では、各タブごとにつぎの属性を設定します。

## [全般] タブ

.....



### ステータスバーの文字色

ステータスバーに表示する警告メッセージとエラーメッセージの文字色を選びます。

### 経過表示

ステータスバーの経過表示に使用するキャラクタを選択します。

### 再表示の間隔

表を共有するとき、何秒ごとに最新の情報に更新するかを指定します。実表を更新する結合表と外部データベース、参照整合性で関連づけられた表の編集でも、同じ間隔で更新されます。

指定できる間隔は1秒から1000秒までです。一定間隔ごとに更新する必要がない場合はゼロを指定します。更新する間隔を短くすると、頻繁にアクセスするようになるため、コンピュータとネットワークの負荷が大きくなりますので注意してください。更新する間隔をゼロにしても、つぎの場面では自動的に最新の情報に更新されます。

- 画面スクロール
- 表を更新した後
- 編集対象表の切り替え

項目訂正時とカーソル移動時の処理対象項目は、つねに最新の情報が表示されます。

### 年度開始月

半期と四半期でグループ化を行なう際の、年度開始月を指定します。

### 画像ファイルの拡張子

拡張子のない画像ファイルを、どの種類の画像として扱うかを指定します。

#### 拡張子 説明

BMP	Windows ビットマップファイルとみなします。
JPG	JPEG ファイルとみなします。

### 空白文字を表示する

空白文字の代替表示モードにするには、この項目をONにします。全角と半角の空白文字の位置には、□と\_が表示されるようになります。

### 起動時に利用者コードダイアログを表示する

この項目をONにすると、起動時に利用者コードの入力画面が出るようになります。

### ファンクションバーを使用する

桐のファンクションバーを使用する場合は、この項目をONにします。

### 松茸を使用する

桐で使用する日本語入力システムをつねに松茸にする場合は、この項目をONにします。桐で使用する日本語入力システムを Windows の設定に任せる場合は、この項目をOFFにします。

### 桐の起動時画面を表示する

この項目をOFFにすると、桐が起動するときのタイトル画面が出なくなります。

### 編集中に候補一覧ポップアップを自動表示する

この項目をONにすると、文字列を編集中に [ # & を入力したとき、項目一覧や関数一覧、変数名一覧が自動表示されます。

### 検索継続のダイアログを表示する

この項目をONにすると、検索実行時に、検索継続画面を表示します。

[全般]タブの[高度な設定]ボタンをクリックすると、つぎの内容を設定できます。



### 計算に関する設定

数学関数を計算するときにコプロセッサを使用するには、この項目をONにします。桐 ver5 の計算精度に近づけるには、この項目をOFFにします。

### 日本語入力中の表示色

日本語入力中の表示色を変更するには、[表示項目]で変更する項目を選択し、[文字色]、[背景色]、[下線]で変更する色と下線の種類を選びます。

### 「#表引き」関数の表を共有→参照の順に開く

この項目をONにすると、#表引きや#表引き2関数で使用する表引き表を、まず共有参照モードで開き、開けないときは参照モードで開き直します。

この項目がOFFのときは、まず参照モードで開き、つぎに共有参照モードで開きます。

### 専有モードでアンドゥを無効化し処理を高速化する

専有モードで表を更新するとき、桐に更新取り消し処理を省略させるには、この項目をONにします。

このオプションは、表を編集しているときの処理が遅く感じられる場合にONにします。

表を共有モードで編集しているときは、この指定にかかわらず、[元に戻す]コマンドを使用できません。

### エディットコントロールのフォントを固定幅フォントにする

ファイルパレットならびに設定画面の各属性のフォントを、固定幅フォントにする場合は、この項目をONにします。この項目をOFFにした場合は、Windows デスクトップのプロポーションアルフォントで表示します。この項目をONにしておくと、計算式や比較式が見やすくなります。

## [フォルダ] タブ



### データファイル

桐で使用するファイルの保存場所を指定します。桐を起動した直後は、ファイルの新規作成と保存時に表示される場所が、ここで指定したフォルダになります。

### 画像ファイル

画像ファイルを探す場所を指定します。たとえば「C:\My Document\%」を指定した場合、「Logo.bmp」のようにパスの指定がない画像ファイルの場所を、「C:\My Document\%」として扱います。この項目を未記入にした場合、編集している表やフォームが保存されている場所を探します。

[フォルダ]タブの[高度な設定]ボタンをクリックすると、つぎの内容を設定できます。



### 作業ファイルの場所

桐が一時的に作成する作業ファイルの保存場所が表示されます。通常は Windows の作業ファイルと同じ場所です。作業ファイルの場所は変更できません。

### ネットワークで使用する

表をネットワーク上で共有する場合は、この項目を ON にします。詳しくは次章の「ネットワーク環境の設定」を参照してください。

## [日時型・時間型] タブ



日時型と時間型のデータを表示するときの形式の既定値を指定します。日時型と時間型の編集属性で[継承]を選択すると、ここで指定した形式で表示されます。

### 注意！

日時の[表示形式]で[mm/dd/yyyy]または[dd/mm/yyyy (英文表記含む)]を選ぶと、日時計算で扱えない文字列になります。このことは、読み込み、書き出し、併合などで日時値を文字列型に変換した場合も同じですので、特に注意してください。

## 数値表示

年、月、日、時、分、秒の各数字が1桁のときの表示方法を選択します（表示例の△は空白）。

### オプション 表示例

空白詰め	2002/△8/△9△△0△:△0.001 … 空白を付加して桁位置を揃える
ゼロ詰め	2002/08/09△00:00:00.001 … ゼロを付加して桁位置を揃える
なし	2002/8/9△0:0:0.001

## 表示形式

表示形式を選びます。式の中で日時値または時間値を文字列型に変換した場合、ここで指定した表示形式になります。

## 表示範囲

日時値と時間値の表示範囲を選びます。

[日時型・時間型]タブの[高度な設定]ボタンをクリックすると、日時型の項目で西暦年を2桁だけ入力したときに1900年または2000年を加算させることができます。



1900年または2000年のどちらかを加算するには、[基準年を設定する]を選択した後、[基準年の設定]に基準となる年数を入力します。たとえば51年以上なら1900年を加算し、50年以下なら2000年を加算するには、[基準年を設定する]に50を入力します。

## 【表の表示】タブ



### 表示色

表の表示色の既定値を指定します。表の表示条件で[（継承）]を選ぶと、ここで指定した表示色が使用されます。表定義画面は、つねにここで指定した表示色で表示されます。

### 罫線

表の罫線の既定値を選びます。表の定義画面は、つねにここで指定した罫線で表示されます。

### 表定義時の初期値として「継承」せずに取り込む

新規作成する表の表示条件を環境設定から取り込むか、継承を設定して環境設定の値を参照するのかわらを選びます。この項目をONにすると、つぎの項目が環境設定から取り込まれます。

- 表示色
- 日本語フォント名と英文フォント名
- 項目名行とデータ行の表示位置

### カットアンドペースト時に項目名も対象とする

表のレコードを切り取りまたはコピーしてほかのアプリケーションに貼り付けるとき、データの先頭行に項目名行を付加するかどうかを指定します。

### 表定義時に項目属性を表形式で表示する

表定義画面で、すべての項目属性を表形式で表示するモードを既定値にしたい場合は、この項目をONにします。

[表の表示]タブの[高度な設定]ボタンをクリックすると、表示条件のつぎの既定値を指定できます。表の定義画面では、つねにここで指定した表示条件で表示されます。



## 【表の書式】タブ



[表の書式]タブの[高度な設定]ボタンをクリックすると、表示条件のつぎの既定値を指定できます。



項目の表示幅の単位を変更するには、[表示幅の単位]を変更します。「桁」を選択した場合、[表の表示条件]画面の[データ行]タブで指定したフォントサイズの桁数になります。表の定義画面では、つねにここで指定した表示条件で表示されます。

## 【印刷】タブ



### 標準フォント

表の表示条件の既定値として使用する日本語フォント名と英文フォント名、スタイル、サイズを指定します。表の表示条件で[(継承)]を選択すると、ここで指定したフォントで表示されます。表定義画面は、つねにこのフォントで表示されます。

### 拡張編集時のフォント

[表示]メニューから[拡張編集]を選ぶと表示される拡張編集領域で使用する、日本語フォント名と英文フォント名、スタイル、サイズを指定します。



### フォント

一覧表印刷とレポートを新規作成するときの既定値として使用する、日本語フォント名と英文フォント名、スタイル、サイズを指定します。

プリンタフォントを指定するには、あらかじめ[ファイル]メニューの[プリンタの変更]で使用するプリンタを選択しておく必要があります。桐を起動した直後は、Windowsで[通常使うプリンタ]に設定されているプリンタが選択されます。

### 禁則処理をする

禁則処理を行なうかどうかを指定します。この設定は一覧表印刷、レポートを新規作成するときの既定値になります。この項目をONにすると[行頭禁則文字]と[行末禁則文字]を変更できます。

### 行頭禁則文字／行末禁則文字

行頭禁則と行末禁則にする文字を指定します。

### 〔一覧表印刷時のスタイル設定〕ボタン

一覧表印刷のスタイルを指定します。この指定は一覧表印刷を新規作成したときの既定値になります。

[印刷]タブの[高度な設定]ボタンをクリックすると、つぎの属性を指定できます。



### 用紙の余白

用紙の余白を指定します。この指定は一覧表印刷とレポートを新規作成したときの既定値になります。

### 英文ワードラップをする

英文ワードラップを行なうかどうかを指定します。一覧表印刷では、つねにここで指定した印字になります。レポートでは、オブジェクト属性の既定値になります。

### 半角組み文字

半角の組み文字印字の方法を選択します。一覧表印刷では、つねにここで指定した印字になります。レポートでは、オブジェクト属性の既定値になります。

### バーコードの印刷方法

バーコードの印刷方法は、バーコード（郵便番号を含む）の大きさを指定します。一覧表印刷は常にここで指定した大きさになります。レポートのバーコードオブジェクトの印刷時の倍率で〔継承〕を指定すると、この大きさになります。

### 郵便番号の太さ

郵便番号のバー幅を指定します。郵便番号は常にここで指定したバー幅で印刷されます。

### 一覧表印刷の印字幅

一覧表印刷でフォントサイズを変更したとき、桁を保持させるか、項目の印字幅を保持させるかを選びます。

## 〔一括〕タブ



起動時に実行する一括処理と[システム]コマンドで実行するプログラムの登録、ならびに変数表サイズなどを指定します。

### 起動時の一括実行指定

起動時に実行する一括処理（コマンドファイル名）を指定します。

### 実行プログラム指定

[実行プログラム番号 1]から[実行プログラム番号 8]に、一括処理のシステムコマンドの番号指定で使用するプログラムとパラメータを指定します。

[プログラム]に指定するプログラムファイル名は、かならずそのプログラムの場所も指定したフルパス名にしてください。

[例] C:\Windows\System32\copy.exe

[パラメータ]には、変数名や項目名などを含めた計算式が指定できます。

MS-DOSの内部コマンドを実行する場合は、[プログラム]に「COMMAND.COM」を指定して、[パラメータ]には「/C <コマンド名>」の形式で指定してください。たとえばMS-DOSのCOPYコマンドを実行するには、つぎのように指定します。

プログラム：COMMAND.COM

パラメータ：/C COPY \*.BMP A:

[一括]タブの[高度な設定]ボタンをクリックすると、各変数表の領域サイズと、一括処理コマンドのオプション指定を設定できます。



### 領域サイズの指定

変数の各種別ごとの領域サイズと、名札の領域サイズを指定します。この値を変更することで、登録可能な変数の数、変数に代入できるデータ量が変わります。[名札領域サイズ]を変更すると、コマンドファイルに定義できる名札数と手続き数、イベントハンドラの数、if・ケース・繰返し文の数が変わります（名札数と手続き数は、名前の長さによっても定義できる数が変わります）。

### 印字コマンドでコントロール文字を展開する

印字コマンドで出力する文字列中の「%t」と「%n」を、タブコードと改行コードとして扱う場合にONにします。

### 印字コマンドで改行文字出力をLFだけにする

印字コマンドで出力する改行コードをCRLFにする場合は、この項目をOFFにします。改行コードをLFだけにする場合は、この項目をONにします。

### フォームのデフォルト拡張子をfrmにする

### レポートのデフォルト拡張子をfrmにする

桐 ver5 の帳票をそのまま使用して、一括処理を実行する場合にONにします。桐 ver5 の帳票は自動的に[変換]タブで設定した属性で変換されます。

### トレース出力ウィンドウを使用する

一括処理またはイベントハンドラの実行状態を調べるために、トレースウィンドウを使用するかどうかを指定します。この項目をONにすると、[表示]メニューから[トレース出力]と[トレース出力ウィンドウの設定]が選べるようになります。

### [表示に関する設定] ボタン

一括処理作成画面の表示と、編集に使用するフォントとサイズ、スタイルを指定します。

## [外部データベース] タブ



### データ抽出時の情報表示

外部データベースからデータを抽出しているときに表示する、経過状況の種類を選択します。

### 接続を自動的に切断する

この項目をONにすると、外部データベース ファイルを閉じたとき、外部データベースの接続を自動的に解除します。

### 文字列の後ろにある空白を削除する

この項目をONにすると、外部データベースから文字列型のデータを取り込むとき、末尾の空白を削除します。



## 【変換】タブ



桐 ver5 で作成した帳票を、フォームとレポートに変換するときの設定を行ないます。表を変換した場合、その表の一覧表印刷条件も、ここで指定した設定をもとに変換されます。

### 変換用プリンタの設定

桐 ver5 の帳票印刷と一覧表印刷で使用していたプリンタメーカーとプリンタ名を選択します。ここで選択したプリンタに基づいて、桐 ver9 形式の一覧表印刷条件とレポートに変換されます。

桐が現在、選択しているプリンタの印字可能領域内に収まるように変換するには、[プリンタメーカー名]で[\* 自動\*]を選びます。[\* 自動\*]を選んだ場合は、印字可能領域内に収めることを最優先するため、文字間と行間、フォント サイズ、用紙の右側と下側の余白が桐 ver5 の印字と異なります。

### 注意！

桐 ver5 で作成した帳票で指定している用紙サイズが、現在選択しているプリンタで使用できない場合は、変換しても印刷できないことがあります。

### 罫線の変換

印刷帳票の罫線の変換方法を選びます。

罫線を多用している伝票形式帳票と表形式帳票を変換すると、レポートの定義画面での描画が遅くなる場合があります。レポート定義画面での操作が遅くなる場合は、[囲みを罫線に変換]項目と[伝票・表形式帳票の罫線を変換]項目をOFFにして変換し、レポートの定義画面で改めて罫線を設定し直してください。

### 表形式帳票の脚書部

表形式帳票の脚書部の変換方法を選びます。脚書部の扱いは、レポート定義画面でも変更できます。

[変換]タブの[高度な設定]ボタンをクリックすると、印刷帳票を変換するときのフォントと、画面帳票をフォームに変換するときの属性を指定できます。



### 注意！

数字の桁位置を揃えたい場合は、固定幅フォントを指定してください。プロポーショナル フォントを指定した場合、文字に応じて文字幅が変わります。



# 6部 ツール

カスタマイズ機能を使用すると、つぎのことができます。

- キーに割り当てる機能を桐 ver5 互換の構成にする。  
または  
Windows の一般的な構成にする。
- 英数字キーに任意の機能を割り当てる。
- ツールバーに配置するボタンを変更する。

キーに割り当てる機能は、つぎの4種類に分けて設定します。

- ファンクションキー
- [Home]や[End]などの特殊キー
- 表示モード時のショートカットキー
- 訂正モード時のショートカットキー

これらの設定を組み合わせることで、特殊キーは Windows の一般的な機能割り当て、ファンクションキーは 桐 固有の機能割り当てという具合に、使い分けることができます。ここでは最初に各キーに割り当てる機能の設定方法を説明し、つぎにツールバーボタンの設定方法を説明します。

## 桐のファンクションキーを使用する

ファンクションキーに、桐 固有の機能を割り当てることができます。ファンクションキーに機能を割り当てるには、つぎの手順で操作します。

### 操作

- ① [ツール]メニューから[環境設定]を選びます。
- ② 桐 固有の機能を割り当てるには、[ファンクションバーを使用する]をONにします。



この設定は、桐を再起動するまでは有効になりません。

## 特殊キーの機能割り当てを変更する

[Home]キーや[End]キーなどの特殊キーには、桐 ver5 互換の機能と、Windows の一般的な機能のうち、どちらかを割り当てることができます。特殊キーの割り当てを選択するには、つぎの手順で操作します。

### 操作

- ① [ツール]メニューから[カスタマイズ]→[キーボード]を選びます。
- ② [特殊キーの構成]タブを選択します。



- ③ 桐 ver5 互換の機能を割り当てるには[桐 ver.5 互換の構成]を選択します。  
Windows の一般的な機能に準拠して機能を割り当てるには[標準の構成]を選択します。

## 英数字キーに機能を割り当てる

英数字キーには、表示モードと入力モードに分けて、任意の機能を割り当てることができます。[Shift]キー、[Ctrl]キー、[Shift]+[Ctrl]キーを組み合わせることで、ひとつのキーに4種類の機能を割り当てられます。たとえば[Ctrl]+[I]キーに、行挿入を割り当てるには、つぎの手順で操作します。

### 操作

- ① [ツール]メニューから[カスタマイズ]→[キーボード]を選びます。
- ② [表示中のキー割り当て]タブを選択します。
- ③ [機能分類]で[行操作]をクリックし、[割り当て可能な機能一覧]の中から[行挿入]を選びます。
- ④ [新しい割り当て]をクリックし、[Ctrl]キーを押しながら[I]キーを押した後、[割り当て]ボタンをクリックします。



この場所で、割り当てるキーを押す

- 入力中のキー割り当てを指定するには、②の操作で[編集集中のキー割り当て]タブを選択します。
- 割り当てた機能を解除するには、[現在の割り当て]で解除するキーを選択し、[解除]ボタンをクリックします。

### キーの一覧から機能を解除する

キーに割り当てた機能の解除を、一覧で確認しながら作業するには、[キー割り当て一覧]タブを選択します。



解除する機能を選択し、… [解除] ボタンをクリック

### キー割り当てを初期値に戻す

英数字キーに割り当てている機能を初期値に戻すには、[キー割り当て一覧]タブを選択し、[初期値に戻す]ボタンをクリックします。つぎの画面が出てきます。



オプション	説明
桐 ver.5互換の構成	桐 ver.5 互換の構成にします。
標準の構成	Windows の一般的な構成にします。

初期値に戻した場合、表示と訂正の両方に割り当てた機能が初期値に戻ります。

特殊キーと英数字キーの機能割り当ては、設定画面を閉じると有効になります。

### ツールバー ボタンの設定

ツールバーには、常に表示されるものと、表やフォームの編集画面または定義画面でのみ表示できるものの2種類があります。各ツールバーは、つぎの場面で使用できます。

ツールバー名	説明
標準	常に表示可能
表編集	表とフォームの編集画面
表示条件	表と結合表の編集画面
行編集	表の編集画面と定義画面 結合表とフォームの編集画面
表定義	一括処理とイベントの定義画面 表の定義画面
結合表定義	結合表の定義画面
フォーム定義	フォームの定義画面
フォームツールパレット	フォームの定義画面
レポート定義	レポートの定義画面
レポートツールパレット	レポートの定義画面
配置	フォームとレポートの定義画面
表組み	レポートの定義画面
一括編集	一括処理とイベントの定義画面

ツールバーの設定は、つぎの手順で行ないます。

## 操作

- ① [ツール]メニューから[カスタマイズ]→[ツールバー]を選びます。
- ② [カスタマイズするツールバー]を選択します。

### ボタンを追加する

ツールバーにボタンを追加するには、追加するボタンを[現在のボタン]の配置位置までドラッグします。



### ボタンを削除する

ツールバー上のボタンを削除するには、削除するボタンを枠の外にドラッグします。削除するボタンを選んで [Delete] キーを押しても削除できます。



削除するボタンを選択して [現在のボタン] の枠の外に出す

### ツールバーを標準に戻す

ツールバーを標準に戻すには[標準に戻す]ボタンをクリックします。[カスタマイズするツールバー]で選択しているツールバーだけが標準に戻ります。すべてのツールバーを標準に戻すには、[カスタマイズするツールバー]でひとつずつツールバーを選択し、[標準に戻す]ボタンをクリックしてください。

- ボタンとボタンのあいだに挿入するには、挿入位置のボタンの上に重ねます。
- ボタンの順序を変更するには、[現在のボタン]内でドラッグします。
- ボタンとボタンのあいだに余白を設けるには、[貼付可能ボタン]のセパレータ（白い余白の部分）をドラッグします。
- つねに表示するボタンは、[標準]ツールバーに追加します。

表と結合表をネットワーク上で共有するには、あらかじめつぎの設定を行なっておく必要があります。

- ネットワークシェルを統一する。
- 共有ディレクトリを作成する。
- 共有管理情報ファイルの保存場所を作成する。
- ネットワークディレクトリをドライブに割り当てる。
- 共有管理情報ファイルの場所を登録する。

### ネットワークシェルを統一する

同じ表を共有する利用者は、ネットワークシェルとそのバージョンを同じにしておきます。異なるネットワークシェルを使用すると、トラブルの原因になります。

### 共有ディレクトリを作成する

表と結合表を保存するネットワークディレクトリを作成します。このディレクトリを使用する利用者には、読み込みと書き込みの両方の権限を与えます。

### 共有管理情報ファイルの保存場所を作成する

桐は利用者の作業状態を管理するために、共有管理情報ファイルを自動的に作成します。同じ表を共有するすべての利用者は、同じ場所の共有管理情報ファイルも共有できるようにしておかなければいけません。

共有管理情報ファイルは、表とは別の場所に作成することができます。共有管理情報ファイルを保存するディレクトリの利用者には、読み込みと書き込みの両方の権限を与えます。

### ネットワークディレクトリをドライブに割り当てる

桐はドライブに割り当てていないネットワークディレクトリにアクセスすることができません。ネットワーク上の表を共有する場合、少なくとも、共有管理情報ファイルのネットワークディレクトリだけはドライブに割り当てておく必要があります。ドライブに割り当てられていないネットワークディレクトリにアクセスしようとした場合、ドライブに割り当てるかどうかをたずねる画面が出てきます。



ボタン	説明
はい	ネットワークディレクトリをドライブに割り当てます。
いいえ	ネットワークディレクトリへのアクセスを中止します。



Windows でネットワークディレクトリをドライブに割り当てるには、つぎの手順で操作します。

### 操作

- ① Windows のデスクトップで[ネットワーク コンピュータ]をクリックし、割り当てるネットワークディレクトリをクリックします。
- ② [ファイル]メニューから[ネットワーク ドライブの割り当て]を選びます。
- ③ 割り当てるドライブを選択します。



[ログオン時に再接続] をクリックしてONにすると、Windows を起動するたびにネットワークディレクトリが指定したドライブに割り当てられます。共有管理情報ファイルを保存する場所は、このチェックボックスをONにしておくことをお勧めします。

Windows エクスプローラを使用して割り当てるには、ネットワークディレクトリを選択した後、[ツール]メニューから[ネットワークドライブの割り当て]を選びます。

## 共有管理情報ファイルの場所を登録する

ネットワークディレクトリの作成と設定が終了したら、共有管理情報ファイルの場所を桐の環境設定で登録します。

### 操作

- ① [ツール]メニューから[環境設定]を選びます。
- ② [フォルダ]タブを選択し、[高度な設定]ボタンをクリックします。





この画面では、つぎの項目を設定します。

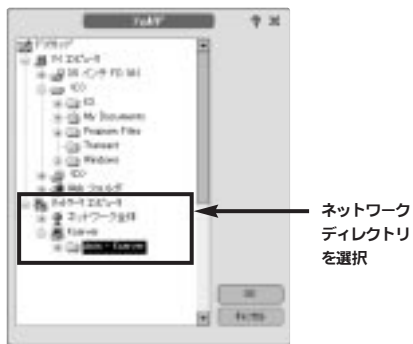
### ネットワークで使用する

表をほかの利用者と共有するために、このチェックボックスをONにします。

### 共有管理情報ファイルの場所

 (フォルダ参照) をクリックし、共有管理情報ファイルの作成場所を選びます。通常はネットワークディレクトリを割り当てたドライブを選びます。

この場でネットワークディレクトリをドライブに割り当てるには、 (フォルダ参照) をクリックし、ネットワークディレクトリを選択して[OK] ボタンをクリックします。



**注意！**

同じ表を共有するすべての利用者は、共有管理情報ファイルの場所を同じにしておかないといけません。

表が壊れた場合には、[ツール]メニューの[表の検査/修復]を使用します。このツールを使用すると、表の状態を検査して、正常な部分のデータを抜き出すことができます。表の検査と修復は、つぎの手順で進めます。

- (1) ディスクを検査する
- (2) 表を検査する
- (3) 編集前の表に置き換える
- (4) 表のデータを修復する

### ディスクを検査する

表に異常が見つかった場合は、つぎのようなメッセージが出てきます。



この種のメッセージが出てきた場合には、使用しているすべてのアプリケーションを終了し、ディスクに異常がないかどうかを調べます。

ディスクを調べる前に、表を別のディスクにコピーしておいてください。ファイル属性の[バックアップをとる]チェックボックスを ON にしている表が壊れている場合は、その表のバックアップファイルもコピーします。参照整合性で関連づけられている表が壊れている場合は、その表と同じ場所にあるすべてのファイルをコピーします。

ディスクに異常があった場合には、ディスクを修復した後の表もコピーしておきます。修復前と修復後の両方をコピーしておけば、どちらかのコピーから修復できることがあります。


### 表を検査する

ディスクが正常な状態であることを確認したら、あらためて棚を起動します。異常があった表は開かずに、つぎの手順で表を検査します。

#### 操作

① [ツール]メニューから[表の検査/修復]を選びます。

② [対象表]に検査する表の名前を指定します。

 (ファイル参照) をクリックすると、表の名前を一覧から選択できます。

- 表に保存されているデータを検査する場合は、[データの値も検査・修復する]を ON にします。
- 登録されている処理条件を検査する場合は、[処理条件も検査・修復する]を ON にします。
- 検査した結果をテキストファイルに保存する場合は、[ログを書き出す]を ON にします。保存したログは、[ログ表示]ボタンをクリックすると確認できます。



③ [検査]ボタンをクリックします。

## 編集前の表に置き換える

ファイル属性の[バックアップをとる]チェックボックスを ON にしている表を編集すると、表と同じ場所にバックアップファイルが作成されます。バックアップファイルを使用すると、壊れた表を編集前の状態に戻すことができます。壊れた表を編集前の状態に戻すには、Windows エクスプローラなどで壊れた表のファイル名を別の名前に変更し、バックアップファイルの拡張子を「.bak」から「.tbl」に変更します。

### 注意！

共有モードまたは共有参照モードで表を編集しているときは、表のバックアップが作成されません。また、主キーか参照整合性が定義されている表では、つねにバックアップが作成されません。

## 表のデータを修復する

表を編集前の状態に戻せない場合、あるいは表のバックアップファイルも壊れている場合は、つぎの手順で表のデータを修復します。

項目属性など、表の枠組みが壊れている場合は、同じ枠組みの表を参照させることで、データが復旧できることがあります。表を専用モードまたは参照モードで編集していたときのバックアップがあるなら、Windows エクスプローラなどでバックアップファイルの名前を変更し、拡張子も「.bak」から「.tbl」に変更しておきます。枠組みを参照する表は、あらかじめ表の検査を行ってから使用してください。

### 操作

- ① [表の検査・修復]画面の[対象表]に、修復する表の名前と保存場所を指定します。
- ② [出力表]に修復後の表の名前と保存場所を指定します。表の名前と保存場所の指定を行なわなかったときは、対象表として指定された表が、修復された表で上書きされます。修復前の表は拡張子を.savに変更して残されます。枠組みが壊れている表のデータを修復する場合は、[参照表]に同じ枠組みを持つ表の名前と保存場所を指定します。
  - 表に保存されているデータを修復する場合は、[データの値も検査・修復する]を ON にします。データの修復を指定すると、データの値が不正な場合はそれぞれのデータ型にしたがった規定値に変更します。
  - 登録されている処理条件を修復する場合は、[処理条件も検査・修復する]を ON にします。処理条件の修復を指定すると、処理条件が不正な場合は削除します。
  - 修復した結果をテキストファイルに保存する場合は、[ログを書き出す]を ON にします。保存したログは、[ログ表示]ボタンをクリックすると確認できます。

## ③ [修復]ボタンをクリックします。



表が正常に修復できた場合には、処理結果とつぎのメッセージが出てきます。

**警告！**

参照整合性の主キーに定義されている表を修復した場合、すぐにもとの場所に戻してはいけません。

もとの場所に戻す作業は、修復した表に主キーを再設定し、外部キーに登録されている値が主キーにあるかどうかを確認してから行ってください。外部キーに登録されている値が修復されていない場合、外部キーが削除されるか、未定義になります。

外部キーに登録されている値を修復した表の主キーに追加するには、[ファイル]メニューから[併合]を選び、新規作成する併合条件の[併合の方法]オプションで[挿入]または[置換挿入]を選択します。